

日韓旅客便週412便で1.7倍に

■大韓航空、統合後の冬季計画

大韓航空 (KAL) は、2026年冬季スケジュール (10月25日～27年3月27日) の日韓線運航計画を決定した。アジアナ航空 (AAR) との統合後となる12月17日以降、日韓線を週412便 (便数はすべて往復ベース) 運航する。KAL単独で運航した26年夏季の週247便に比べ、約1.7倍となる。

7日付でKALが発表した。各路線の機材は同発表で明らかにしていない。AARが運航する便は統合後、順次KAL便名へ変更する予定。運航計画は政府認可を前提とする。

KALとしての日本の就航空港は現

在の15空港から19空港に増え、ソウル (仁川、金浦) と釜山、済州を結ぶ計24路線を運航する。仙台—仁川、宮崎—仁川線をKAL便として運航するほか、12月23日に広島—仁川線をデイリーで新規開設する。大分—仁川線は約2年半ぶりに週4便で運航を再開する。

主要路線では、関西—仁川線を1日9便、成田—仁川線を同8便、羽田—金浦線を同6便運航する。関西—金浦、名古屋—仁川線はそれぞれ同



2026年冬季スケジュール路線図 (統合後)

4便、神戸—仁川、新千歳—仁川線はそれぞれ同3便とする。羽田—仁川、成田—釜山、沖縄—仁川線はそれぞれ同2便を設定する。